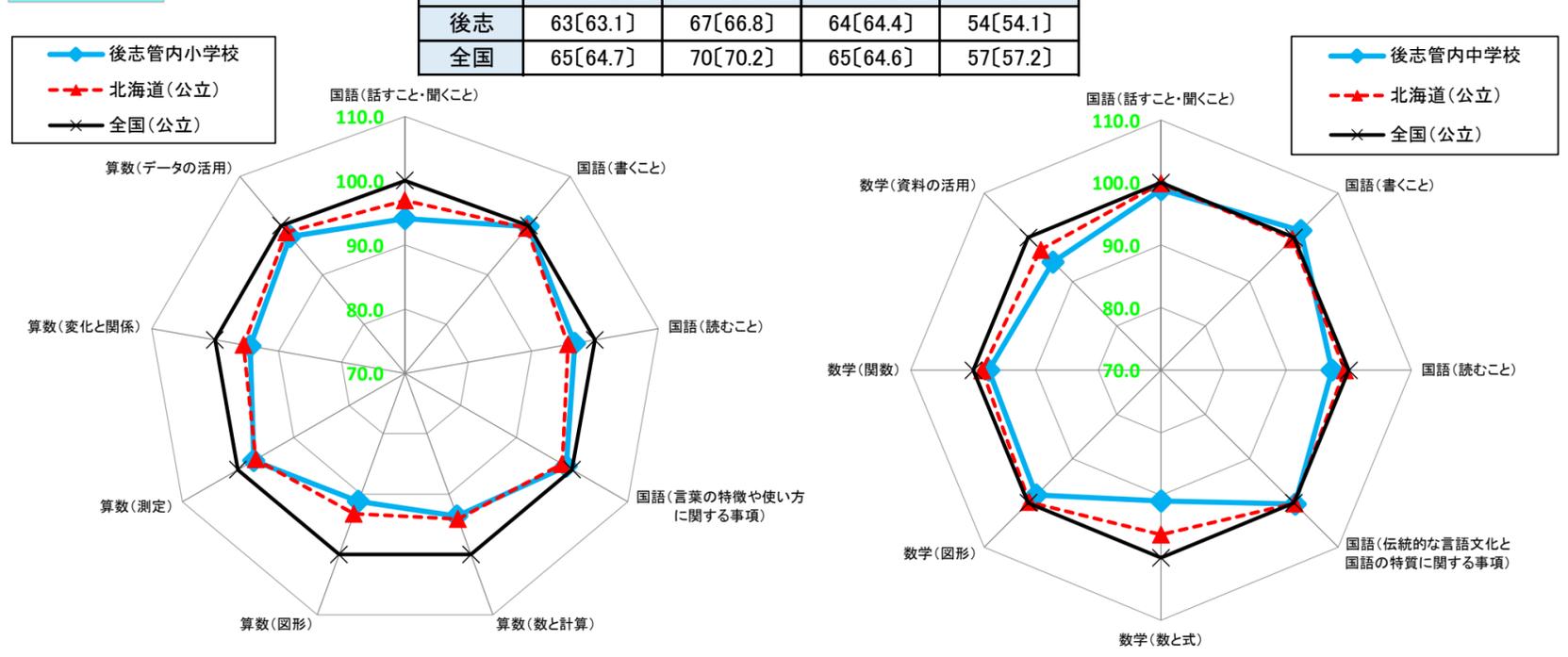
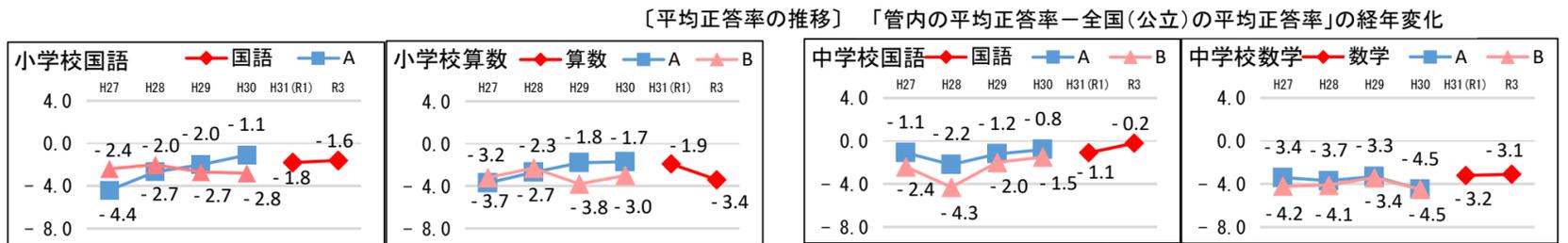


後志の状況及び学力向上策 (小学校数:55校、児童数:1207人)(中学校数:36校、生徒数:1241人)

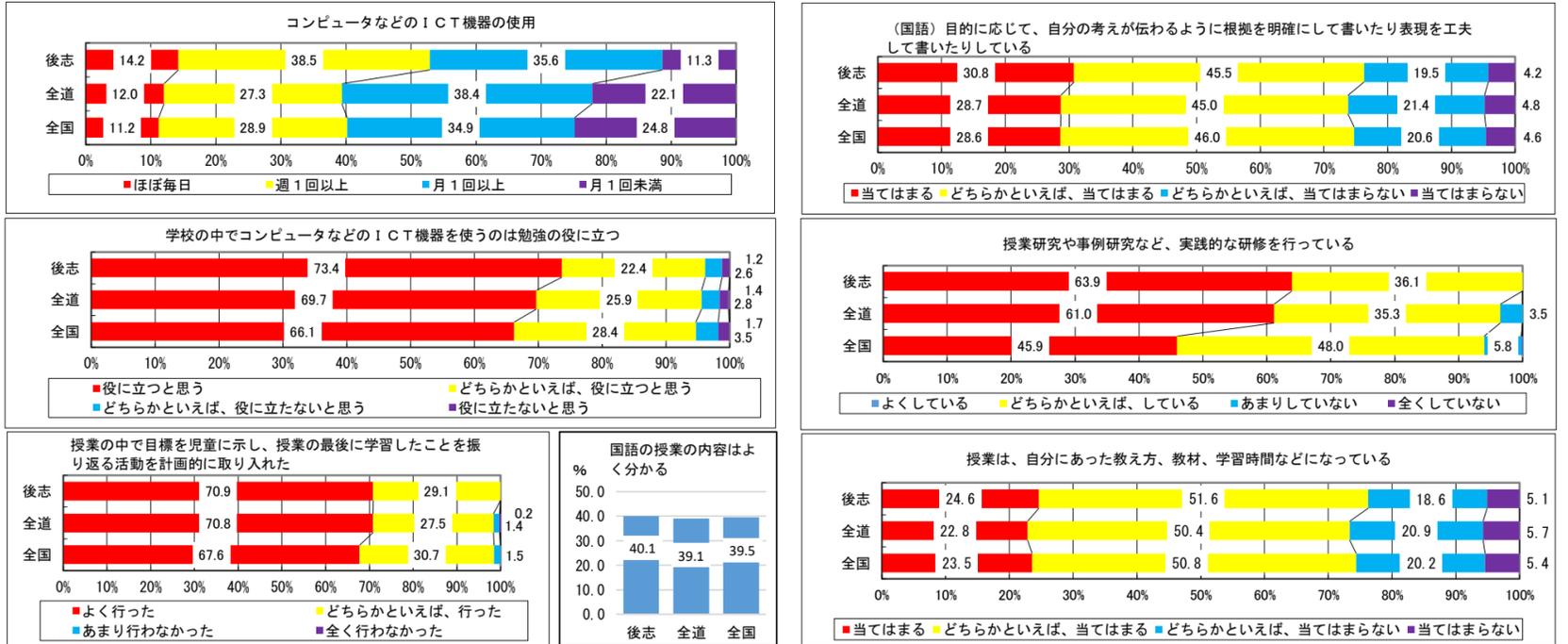
小学校 【教科全体の状況】 中学校



教科の領域別に全国を100とした場合の全道及び管内の状況をレーダーチャートで示したもの (管内の平均正答率÷全国(公立)の平均正答率×100で算出)



【質問紙の状況】 中学校



【上記結果の考えられる要因の分析】

小学校

管内の多くの小学校において、ICTの効果的な活用に係る研修の機会を設定し、ICT機器を活用した実践を積極的に行ったことにより、学校の中でコンピュータなどのICT機器を使うのは勉強の役に立つと回答した児童の割合が全国及び全道を上回ったと考えられる。

管内の多くの小学校において、授業の中で目標を児童に示し、授業の最後に学習したことを振り返る活動を計画的に取り入れたことにより、学びが自覚化され、国語の授業の内容はよく分かったと回答した児童の割合が全国及び全道を上回ったと考えられる。

中学校

管内の多くの中学校において、国語の授業において、目的に応じて、自分の考えが伝わるように根拠を明確にして書いたり表現を工夫して書いたりする学習を行ったことにより、書くことの領域で全国及び全道を上回ったと考えられる。

管内の多くの中学校において、授業研究や事例研究など、実践的な研修を行ったことにより、授業改善が図られ、授業は、自分にあった教え方、教材、学習時間などになっていると回答した生徒の割合が全国及び全道を上回ったと考えられる。

【後志の学力向上策】 については、次ページの学力向上の取組を参照ください。

後志管内における学力向上の取組

1. 管内課題と重点的な改善策

(1)カリキュラム・マネジメントの充実

- 各種調査結果や子ども、地域の実態を踏まえた教育課程を編成・実施し、検証改善サイクルを確立する必要がある。
- 学力向上に向けた取組の年間スケジュールを明確にし、各種調査結果等の客観的なデータ等を基に、取組の検証・改善を図る。
- 子どもや地域の実態を適切に把握した上で、教育の目標を明確化し、校内で共有する。

(2)授業改善

- 資質・能力の3つの柱をバランスよく育成するため、主体的・対話的で深い学びを実現する授業や1人1台端末を生かした授業を推進する必要がある。
- 指導と評価の一体化を図り、課題解決型の授業の質を向上するとともに、各種調査結果や授業評価等により、授業改善の取組の検証改善を図る。
- 課題提示、交流での協働的な学びなどの学習段階に応じ、子どもの柔軟な発想も生かした1人1台端末の活用を図る。

2. 具体的な取組

月	(1)カリキュラム・マネジメントの充実	(2)授業改善
10	評価結果を踏まえた後期における改善点の検討	
11	<div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">各種指定事業における指導助言</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">学校訪問における指導助言</div> </div>	<div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">各種指定事業における指導助言</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">学校訪問における指導助言</div> </div>
12	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; background-color: #ffff00;"> 義務教育指導監による学校経営サポート <ul style="list-style-type: none"> ・校長への学校経営指導訪問 ・メール等による個別の学校経営相談 ・校長や教頭を対象とした講話・助言 </div>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; background-color: #ffff00;"> 指導主事による授業づくりサポート <ul style="list-style-type: none"> ・ShiriBeshi Learning Boxプロジェクト（オンライン研修） ・スクール コンサルティング(Web面談) ・各学校の課題に応じた校内研修への支援 ・課題のある学校を訪問し、授業づくりの支援 ・指導力に課題のある教員に対する指導助言 </div>
1	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; background-color: #ffff00;"> 義務教育指導監による市町村の教育のサポート <ul style="list-style-type: none"> ・市町村単位の校長会議や教頭会議に出向いた指導助言 </div>	
2		<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; background-color: #ffff00;"> 中堅教諭等資質向上研修・初任段階教員研修等における指導助言 <ul style="list-style-type: none"> ・教諭を対象とした組織的な授業改善に向けた指導助言 </div>
3		

3. 取組の評価

<p>(1)カリキュラム・マネジメントの充実</p> <p>①「学力向上に向けた年間スケジュールの明確化と取組の検証・改善」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・目標 小…100%、中…100% ※3月末に評価 	<p>(2)授業改善</p> <p>①「全国学力・学習状況調査問題を活用した授業改善の推進」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・目標 小…100%、中…100% ※3月末に評価 <p>②「1人1台端末の活用」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・目標 小…100%、中…100% ※3月末に評価
--	---

4. 改善点

<p>(1)カリキュラム・マネジメントの充実</p> <p>①組織力強化会議で演習・協議を行ったことを基に、自校の学力向上ロードマップを活用し、取組の重点化、明確な目標指標の設定、取組内容の具体化を図るとともに、取組期間、中心担当者、共有の方策を意識して確実に検証・改善を行う必要がある。</p>	<p>(2)授業改善</p> <p>①S-P表や質問紙調査の分析結果を反映させた、自校の児童生徒の課題解決を図る授業改善の推進と成果や課題の検証を行う必要がある。</p> <p>②校内研修において1人1台端末の活用実践交流等を定期的に行うことにより、全教員が日常的に活用できる状態に高めていく必要がある。</p>
---	---